

はじめに

近年の地球温暖化に伴い、今後ますます災害リスクの高まりが予測された中、令和元年（2019年）10月に台風19号による豪雨で、幸手市を含む広域の市町で避難勧告・避難指示(※1)が発令され、一時は利根川の堤防決壊等による洪水発生危機(※2)が高まりました。当自治会会員の方の中には避難場所に自主避難された方もおられました。

しかし、幸手市の避難勧告情報の伝わり方の不十分さや、避難場所へ移動するにも道路が冠水していることの情報伝わらなかったという支障もあり、防災行動に改善すべきところがありました。そのことは幸手市の問題だけではなく、自治会としても反省すべきところがありました。今後ますます災害リスクが高まると予測される豪雨災害時の防災行動への改善を図るうえで、その時の問題点等をハッキリさせておくことは大切です。それらの事を踏まえ、会員各位のご協力を得て、令和元年12月に豪雨時の避難行動に対するアンケート調査(※3)を行い、皆さんから多くの貴重なご意見をいただきました。（その結果については後述します。）

災害時の防災行動は言うまでもなく、「自分の身は自分で守る」のもと安全確保の避難行動を行うことが原点になりますが、少なくとも自治会として予め行動指針を決めておくことが組織としての共助や互助により被害の防止と軽減が図れるものと考えます。

前述のアンケートからのたくさんの意見を基に、令和2年6月、自主防災組織改訂委員会を有志の参加により設立しました。

有志委員各位の決意は災害に強い安全・安心なまちづくりを推進し、自らの生命と安全を確保し避難行動を行いつつ、組織に参加する会員相互の共助や互助により被害の防止と軽減をはかる組織的な防災行動を確実に行う事です。そして、委員会総括の成果として、ここに「わたし達を守る防災ブック」として取りまとめました。冒頭に申し上げましたように日本全国各所で水害・地震の発生リスクがありますので、日頃より防災ブックに目を通して頂き活用できるように身近に備えていただき自分の身は自分で守ることが出来ることを願っています。

幸手東武団地自治会 自主防災組織改訂委員会

(※1) 付録(1)：台風19号に伴う幸手市の水害状況

(※2) 付録(2)：利根川上流 危険水位（2019年10月13日10時40分）

(※3) 付録(3)：豪雨時の避難行動に対するアンケート 集計結果